

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000945), 法人名 (有限会社 Human-Effort), 事業所名 (グループホーム 自由の樹 1F), 所在地 (北海道小樽市最上1丁目36番4号), 自己評価作成日 (平成28年11月29日), 評価結果市町村受理日 (平成29年1月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天狗山のふもとにあるホームは裏に川もあり四季の移り変わりを体で感じ取る事が出来ます。近隣の保育園や高校生が定期的にホームを訪れて歌、紙芝居などあります。小樽潮太鼓保存会の方に年に1度来て頂き太鼓を披露して頂いたり地域交流を積極的に行っています。花見、紅葉見学、水族館、食事会季節を感じていただいたり楽しんで頂ける様毎月企画を考えレクリエーションを行っています。利用者、ご家族に寄り添い、家庭的な雰囲気の中安心した生活を送っていただける様職員一同努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2016 022 kihon=true&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年12月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外の閑静な住宅地に建つ2階建て2ユニットの事業所で、広い庭には花壇や菜園がある。裏山には小川が流れ、桜やクミの木があり秋にはクミの収穫を楽しみ、小動物が訪れる自然に恵まれた住環境にある。事業所内は随所に工夫が見られ、介護者や利用者の動線を考慮し、リビングや廊下は広くゆったりとした造りになっており、歩行運動や体操が出来るスペースがある。管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で理念『思いやりの心』を持ち、利用者と共に過ごす時間を大切にしている。利用者の経験や知識が発揮できるように、花壇や菜園作り・遠出の外食や外食・施設内行事の準備・参加・後片付け等を支援している。また身体機能に合わせたレクリエーションを日課としており、事所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。防災訓練には力を入れ、定められた年2回の避難訓練の他、事業所独自の防災訓練を実施している。近隣住民とは買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、地域住民は事業所主催の行事や避難訓練に参加する等、良好な関係を築いている。恵まれた住環境の中で、利用者をやさしく支え地域に根ざした家庭的で温かい地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と職員が笑顔で過ごせるようにサービス担当者会議やカンファレンスを行い理念に基づいて実践を行っています。	事業所独自の理念『思いやりの心』等は、共用部分に掲示している。理念は毎日の申し送りや業務で確認するとともに、パンフレットや事業所便りに明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	明峰高校の社会体験学習や最上保育園の定期的な来訪や子供御輿、小樽潮太鼓保存会の方に来て頂き地域の方と入居者が交流を持つ環境づくりに努めています。	町内会に加入し、事業所の敬老の日・レクリエーション・避難訓練には地域の人達が参加しており、保育園児や小樽潮太鼓保存会のボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方に運営推進会議に参加して頂き地域に向け理解、支援方法を発信しています。レクリエーションにも参加していただいたりしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修の報告や事例をもとに相談をさせて頂いたり助言を頂きサービスの向上に努めています。	家族・婦人部・町内会・地域包括支援センター職員の参加のもと、年6回定期的に開催している。日常の活動記録や写真を提示して事業所の状況を説明し、それぞれの意見は運営に活かしている。	全家族に運営推進会議の案内はしているが、現状としては家族の参加が少ない。多くの利用者家族と話し合いいろいろな意見を得られるように、家族の参加を促す工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や困った事があった時にはすぐに市役所に連絡を入れ相談させてもらったり確認をさせて頂いています。	市の介護保険課とは、事業所の活動状況報告などの連絡を密にし、地域包括支援センターなど関係機関の助言を得て、サービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修に参加し、身体拘束、虐待について学び、日々のケアの中で不適切な対応をしていなかったか話し合うように努めています。	玄関は夜間の数時間以外施錠していない。外出傾向の利用者には、さりげなく見守り支援をしている。身体拘束や虐待に関するマニュアルは完備し、自由な生活を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を行い虐待防止に努めています。また自己チェックシートを用い職員のストレスや悩みの把握を行いストレスが虐待に繋がらないよう職員と個人面談を行い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、そこで得た情報をホーム内で研修を行い、必要な方にはこちらから助言できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にかかる時間を事前に伝えご家族に十分に時間を取っていただき、説明不足にならないよう丁寧に説明するよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に必ず、ご家族から意見や要望など無いか確認するようにしています。運営推進会議にも参加していただき意見を頂いています。	玄関に意見箱を設置している。来所時の会話の中から、希望や要望をくみ取り家族の思いを、運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己チェックシートを用い1週間を振り返り感じた事を記入してもらい、その内容をもとに個別に面談を行い意見や提案をしてもらっています。	職員参加の会議があり、意見や提案を聞く機会がある。メンタルケアやストレスケアに配慮し、随時個人面談をしている。職員が毎日記入するチェックシートは、自らの振り返りや気付きに効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や役職に合わせた給料体制をとっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修に参加してもらいホーム内で講師になり研修を行う事で知識や技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修等に参加し他グループホームとネットワークを作り情報交換等を行いサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	サービス開始前に必ずご本人、ご家族と面談を行いアセスメントをとる事で必要なサービスをすぐに提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に可能な限り見学に来ていただきご本人の入居後の生活をご家族と一緒に考えながら必要なことや要望を聞き取っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族以外にも相談員やケアマネジャーの方からなるべく細かな情報を頂き今必要なサービスを見極めすぐに提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を無理なく可能な限り行っていただき、家庭的な雰囲気の中で共に生活し関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などを一緒に行っていただき共にご本人を支える関係を築けるようにしています。可能な限りレクリエーション等にも参加していただき協力をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や友人、知人の面会等で関係が途切れないよう努めています。病院も必ずしも提携医ではなく今までかかっていた病院に可能な限り受診しています。	家族と墓参りやレストランでの会食、友人・知人の訪問等、利用者が築いてきた馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中でその方の生活を把握し関係が良好に保てるよう職員が間に入り会話や関係を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には必ずいつでも訪問や電話を頂ける事を伝えてあります。命日にご家族が来られ故人の思い出話をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の話やまた意思表示の難しい方は表情を読み取ったりご家族と相談しながら意向や要望の把握に努めています。	職員は個々のアセスメントを共有するとともに、日常の希望・意向・嗜好を受け止め、家族の情報を得て利用者本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員、ケアマネージャー、ご家族、医師等その方の生活にかかわっているなるべく多くの方から情報をもらい生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で生活リズムの把握に努めています。定時のバイタル測定で心身の状態を把握しその時にできる事を見極め対応できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受診や往診時に医師と相談しホーム看護師、管理者、職員で必ず担当者会議を行いケアプランを作成しています。プラン作成前には必ずご家族に要望を確認しています。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師や看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録の他に申し送りノートやカンファレンスノートを用い気づいた事や変化があった事等の情報の共有に努め必ず担当者会議を行いケアプランの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の日々の生活やご家族との会話の中で状況やニーズの把握に努め必要なサービスを提供できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の来訪や高校生の社会体験学習の場を通じ地域とのかかわりを持ち豊かな生活が送れるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を決めるときは必ずご本人、ご家族と話し合い継続した治療や適切な医療が受けられるよう努めています。	利用者希望のかかりつけ医への通院支援を行なっている。協力医療機関の医師は2週間に1度訪問診療に来ており、事業所看護師による健康管理がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回のホーム看護師の訪問時に健康状態や変化等の報告を行いそれをもとに必要な処置や受診、往診による医師への相談を行っています。また不在時にも急変に対応できる連絡体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの基本情報を用い病院に情報提供を行っています。出来る限り日々面会に行きご本人の安心を得られるよう努めています。ご家族とも連携を図り1日でも早い退院がスムーズに行えるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	契約時以外にホーム看護師、医師と相談し時期をみて、必ず医師に立ち会ってもらいホームでの可能な対応をご家族に十分に伝え方針を決め支援を行っています。	重度化した場合や終末期のあり方については、事業所ができる事を説明し最大限の支援をしている。利用者や家族の思いに添い、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム看護師が中心となり応急処置やADLの使用、緊急搬送の対応等研修を行い緊急時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと地震火災や夜間を想定した訓練を年2回以上行っています。自主訓練等を行い全職員が対応できるよう努めています。町内会の方やご家族にも参加していただき地域の協力体制を築けるよう努めています。	消防署の協力のもと、利用者・家族・地域住民が参加して年2回防災訓練を実施している。避難経路の確認や、実際にブルーシートをタンカとして使用した訓練も行われており、事業所独自で自然災害の訓練も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちや立場に合ったケアを職員一人一人が心がけ、ほこりやプライバシーを尊重したケアができるよう言葉づかいやケアの方向性の統一を図っています。	入浴やトイレ介助の際など、利用者を傷つけないように日頃から個人を尊重した言葉がけに配慮している。常に理念である『思いやりの心』を大切にし、職員への意識付けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方には直接確認したり会話の中で決定してもらっています。日々のコミュニケーションの中での表情や行動からくみ取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方々の生活リズムを把握し、体調や気分に合わせてその日を生活していただけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を使いカットや顔そりを行っています。職員と一緒に衣類の選択を行い季節や好みに合ったおしゃれができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好に合わせた食事の提供に努めています。テーブル拭きや下膳等できる事をさせていただいています。	一人ひとりの力に応じて、職員と共に食事の準備や後片付けを行なっている。職員と共に食卓を囲み、談笑しながら和やかに食事をしており、食事が1日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表や食事表を使い量を確認しています。少ない方にはご本人の嗜好を考え提供したり、医師に相談し高エネドリンク等処方してもらっています。ご家族にジュースなど持ってきてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、舌ブラシを用い不十分な方は仕上げ磨き等の介助を行い口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い特定の時刻などを決めず、その方々の排泄パターンを把握し声かけや誘導を行っています。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが3ヶ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量の把握以外にも毎日の運動や腹部マッサージを行っています。医師、看護師に相談し必要な方は下剤を使用し便秘にならないよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間以外は時間、曜日を決めず、体調をみながら時間や温度の好みを考え入浴していただいています。体調や本人希望でシャワー浴にしたり清拭しています。	本人の希望する曜日・時間に入浴できるよう支援している。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけの方法を工夫している。必要に応じ、シャワー浴や清拭に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力を考え日中も休んでいただいたりしています。夜間は明るさや音、温度等を考え安心して休んで頂けるようしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や説明書きですぐに確認できるようにしています。薬の変更等あった時は受診往診記録以外にもカンファレンスや申し送り表を用い変化等確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、奥様に面会に行く事等楽しみや役割を見つけ少しでも充実した生活を送っていただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや 買い物、奥様の面会等ご本人の体調をみて声をかけています。ご家族の協力のもとお墓参りに行ったり自宅に帰ったりされています。	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身体の状態に配慮しながら、日常的に近隣散策や買い物に行き、菜園・花畑での作業に参加している。外食や行事外出は計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾のもと預かっているお小遣いをご本人にお渡しし支払したり本人のお財布から支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を持っている方もいます。家族連絡の際にはご家族に確認しご本人とお話していただいたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や有線やテレビの音量、湿度温度計を使用し居心地の良い空間作りに努めています。	共用空間の壁には、利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室には手すりが効果的に配置されている。リビングは広く、歩行訓練や運動にも効果を上げている。温度・湿度に気を配り、清潔で快適な居住空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファを用い一人の空間を作ったり、声かけを行いお誘いしご本人同士お話ができる空間作りに努めています。職員が間に入り会話のかけ橋をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り使い慣れた家具の持ち込みをお願いしています。居室内のレイアウトはご本人、ご家族と話し合い決めています。	家具類や日用品を持参し、馴染みのあるものや思い出のあるものを飾り、居心地良く生活ができるよう工夫をしている。家族と共に危険箇所がないかなどの点検を行い、安全に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダーを数か所に置き季節や時間の確認等すぐできるようにしています。動線などを考え安全に生活できるよう努めています。		